

呼吸ケアサポートチーム (RST) における 特定看護師の活動内容に対する多職種評価

江草佳奈^{1)†}・岡崎智子¹⁾・戸田美和子¹⁾・古村 恵¹⁾・大竹孝尚²⁾・天野明彦³⁾

KEY WORDS RST, 特定看護師, 多職種評価

I はじめに

呼吸ケアサポートチーム (Respiratory Care Support Team : RST) は、人工呼吸器装着患者に対する安全管理や人工呼吸器離脱支援、多職種連携を通じた包括的な呼吸ケアを担うチームとして活動している¹⁾。

近年、特定行為研修修了看護師 (以下、特定看護師) の活用が進み、RST活動へ参画する施設も増えている。分造²⁾ は、特定看護師のRST参画が人工呼吸器管理や離脱支援に貢献したことを報告している。しかし、RSTにおける特定看護師の活動内容について、多職種の視点から評価した報告は少ない。

本研究では、医師、看護師、リハビリテーション専門職、臨床工学技士 (以下、CE) を対象にアンケート調査を実施し、RSTにおける特定看護師の活動内容に対する評価を明らかにすることを目的とした。

II 対象・方法

1. 当院RST体制

当院RSTは一般病棟の人工呼吸器装着患者を対象に活動している。2010年から2021年11月までは、医師を中心に週1回の多職種回診を実施し、人工呼吸管理に関する助言や提案などを行っていた。2021年12月からは呼吸器関連区分を修了した特定看護師がRSTに参画し、特定看護師1~2名とCE 1名が平日日勤帯 (9~17時) にRST対象者を回診している。医師が方針決定や最終判断を担う一方、日常的なRST活動の主体は特定看護師が担っている。

2. 特定看護師の実践内容

特定看護師は、手順書に基づく人工呼吸器の設定変更や離脱を実施している。また、リハビリテーションに同

席し、呼吸状態に応じた人工呼吸器設定調整による離床支援、患者の状態に応じた気分転換活動 (散歩やシャワー浴) を実施している。さらに、回診時や相談時には病棟スタッフへの教育的支援を実施している。

3. 調査対象

RST活動を通して特定看護師とかわった医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、CEを対象とし、RST所属スタッフは除外した。

4. 調査期間

2023年12月21日から2024年1月5日までとした。

5. 調査方法

Google Formsを用いた無記名調査を実施した。アンケートURLを院内メールで全職員に配信し、自身で該当すると判断した対象者が任意で回答した。アンケート項目は、当院RSTにおける特定看護師の実践内容をもとに作成した。

調査項目は①特定看護師の実践12項目 (離床・呼吸管理3項目、患者安全4項目、タスクシェア・シフト5項目)、②特定看護師との協働5項目 (タイムリーな対応、相談のしやすさ、呼吸器管理への理解、不安軽減など)、③人工呼吸管理への不安、④RSTへの要望とした。①②は「とてもそう思う」から「全くそう思わない」の5段階で評価し、③は「あり」「なし」の2択と、その理由の自由記載、④は自由記載とした。

6. 分析方法

①②は単純集計し、5段階評価の上位2段階を肯定的評価とした。③④は単純集計および内容を整理した。

7. 倫理的配慮

対象者に研究目的、匿名性の保証、自由意思による参加であること、回答をもって研究参加および結果公表への同意とみなすこと、データは研究目的以外に使用しないことを文書で説明した。本研究は当院倫理委員会の承認を得て実施した。

1) 公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院 看護部

2) 同 集中治療科

3) 同 呼吸器内科

† 責任著者

[受付日：2025 年 9 月 9 日 採択日：2026 年 9 月 14 日]

呼吸ケアサポートチーム（RST）における
特定看護師の活動内容に対する多職種評価

Ⅲ 結 果

278名から回答を得た。院内メール配信者数を分母とした回収率は19.8%であった。回答者は、医師29名、看護師206名、リハビリテーション専門職26名、CE 17名であった。

離床・呼吸管理の評価では、「スムーズな離床につながっている」の肯定的回答の割合は91.2%、「最適な呼吸器選択につながっている」は90.5%、「スムーズな人工呼

吸器離脱につながっている」は88.8%であった（図1）。患者安全の評価では、「加湿ケアによる気道閉塞予防」の肯定的回答の割合は93.8%と最も高かった（図2）。

タスクシェア・シフトの評価では、「人工呼吸器設定変更」の肯定的回答の割合は93.2%、「人工呼吸器からの離脱」は93.1%、「離床支援」は89.6%、「気分転換活動」は89.4%で、すべての項目で8割以上の肯定的評価が得られた（図3）。

特定看護師との協働の評価では、「タイムリーに対応し

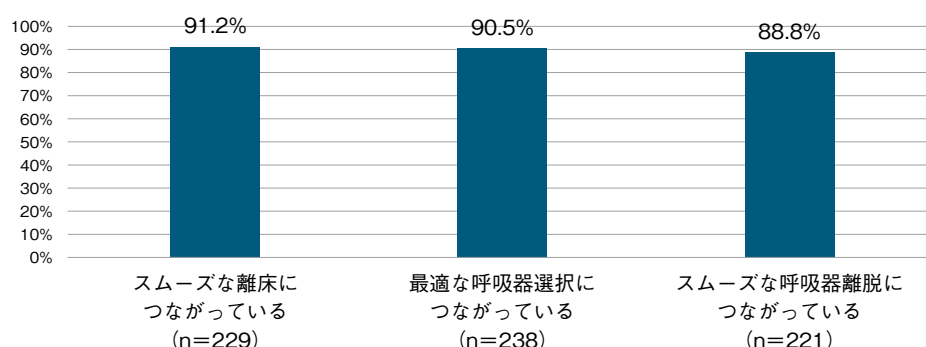


図1 特定看護師の実践による離床・呼吸管理の評価

注1) 最適な呼吸器選択：患者の活動範囲や転院先に応じた人工呼吸器機種の提案

注2) 「とてもそう思う」「そう思う」を肯定的回答として集計した。

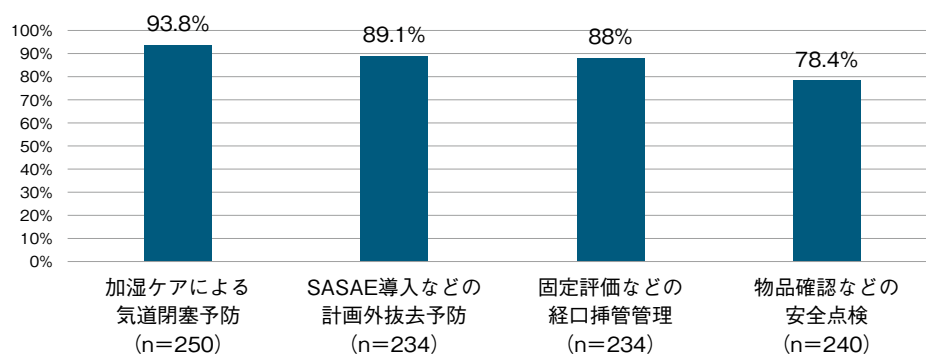


図2 患者安全につながっていると思う特定看護師の実践への評価

注1) SASAETM（気管カニューレ固定用プレートの商品名）

注2) 「とてもそう思う」「そう思う」を肯定的回答として集計した。

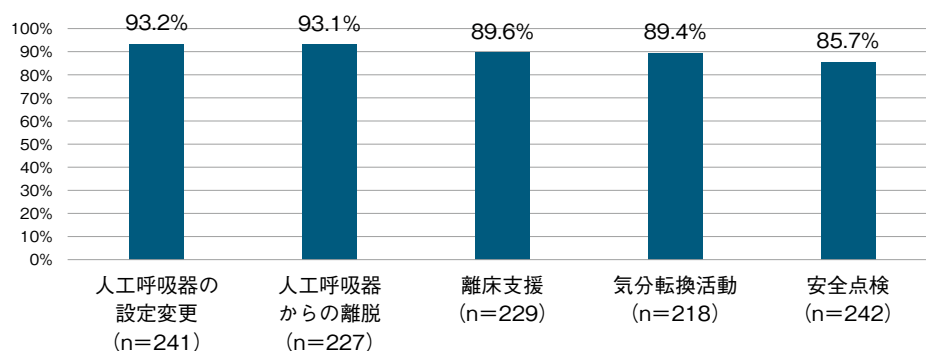


図3 タスクシェア・シフトにつながっていると思う特定看護師の実践への評価

注) 「とてもそう思う」「そう思う」を肯定的回答として集計した。

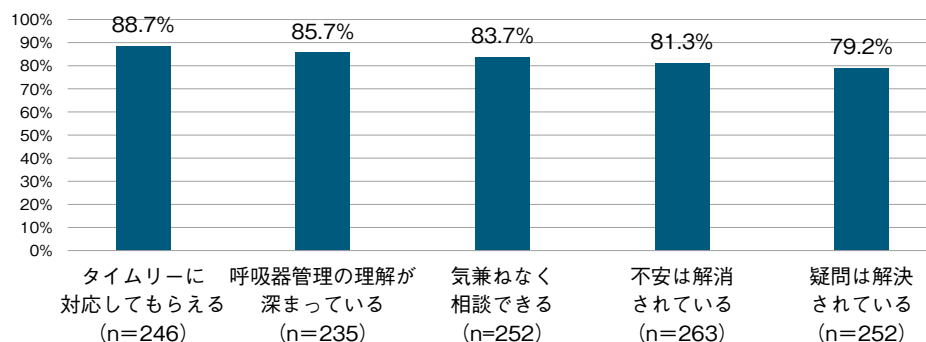
呼吸ケアサポートチーム（RST）における
特定看護師の活動内容に対する多職種評価

図4 特定看護師との協働に対する所感

注)「とてもそう思う」「そう思う」を肯定的回答として集計した。

てもらえる」の肯定的回答の割合は88.7%と最も高く、「呼吸器管理への理解が深まっている」は85.7%、「気兼ねなく相談できる」は83.7%、「不安は解消されている」は81.3%、「疑問は解決されている」は79.2%であった（図4）。これまでの評価について職種別に確認したところ、概ね同様の傾向がみられた。

人工呼吸管理への不安について、回答者269名のうち「あり」は250名（92.9%）で、アラーム対応や人工呼吸器設定に関する不安がみられた。また、RSTへの要望として、人工呼吸管理に関する教育・指導や、RST不在時の対応に対する不安、夜間・休日を含めた支援体制の充実を求める意見がみられた。

Ⅳ 考 察

RSTにおける特定看護師の活動内容について多職種を対象にアンケート調査を実施した結果、呼吸管理や離床支援、患者安全、多職種協働において肯定的評価が得られた。

当院では、特定看護師がRST回診の主体となり、手順書に基づく人工呼吸器設定変更や離脱支援を実践している。従来は医師中心であった介入を、患者状態に応じて継続的かつタイムリーに実施できる体制が、多職種からの高い評価につながったと考えられる。また、人工呼吸器設定変更および人工呼吸器からの離脱は、9割の多職種がタスクシェア・シフトにつながっていると評価していた。このことから、特定看護師が医師と役割を分担しながらRST活動を実践する体制は、多職種から肯定的に評価されていた可能性が示唆された。

当院では、患者の活動状況や呼吸状態に応じた人工呼吸器の機種変更の提案、人工呼吸器設定の調整による離床支援に加え、散歩やシャワー浴など患者のQOLを見据

えた支援も行っている。築田ら³⁾は、人工呼吸管理中の呼吸ケアを、安全管理や生活支援、多職種連携を含む包括的な実践と報告している。特定看護師が呼吸状態を評価し、人工呼吸管理と活動支援を一体的に実践することで、安全に患者の活動や生活を支援できることが肯定的な評価につながった可能性がある。

「呼吸器管理への理解が深まっている」や「不安は解消されている」との評価は得られたものの、人工呼吸管理に不安があると回答した割合は92.9%であった。RST回診や相談を通じて、その場で生じた疑問や不安は解消される一方、人工呼吸管理そのものに対する不安は残存していることが考えられた。原ら⁴⁾は、一般病棟での不安軽減には、RSTによる教育や相談体制の構築が重要と報告している。本研究でも教育・指導や支援体制の充実を求める意見が見られたことから、継続的な教育支援や相談体制の充実が今後の課題と考えられた。

本研究にはいくつかの限界がある。第一に、アンケート調査による主観的評価に基づく検討であり、特定看護師参画前後の比較や患者アウトカムなどの客観的指標による評価は行っていないため、特定看護師参画の効果を直接示すものではない。第二に、院内メール配信者数を分母としており、特定看護師とかわった対象者の正確な回答率は不明である。また、回収率は19.8%と低く、RST活動に関心の高い医療者が回答した可能性があり、回答者バイアスを否定できない。第三に、当院のRST活動は特定看護師とCEが協働して実施しているため、アンケート結果にはCEとの協働による影響が含まれている可能性がある。今後は、患者アウトカムを含めた客観的指標を用いた検討が必要である。

呼吸ケアサポートチーム（RST）における
特定看護師の活動内容に対する多職種評価

V 結 語

RSTにおける特定看護師の活動は、人工呼吸管理や離脱支援、患者安全、多職種との協働において高い肯定的評価を得ていた。本研究は主観的評価に基づく結果ではあるが、RST活動における特定看護師の役割が多職種から支持されていることが示唆された。

本稿のすべての著者には規定されたCOIはない。

参考文献

- 1) 長谷川隆一：人工呼吸療法の呼吸ケアサポートチーム（RST）。人工呼吸。2023；40：4-9.
- 2) 分造健太：看護師特定行為研修修了者がRST（呼吸ケアチーム）として活動した1年の成果。日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌。2022；32：177.
- 3) 築田 誠，伊東由康：看護師が実践する呼吸ケアについての概念分析—人工呼吸器管理を必要とする患者へのケアに焦点を当てて—。看護研究。2022；55：46-51.
- 4) 原 千春，中井聡紀，銀杏 猛ほか：一般病棟における安全な人工呼吸管理体制の構築を目指して。日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌。2024；33：22-9.